

80歳以上の高齢者肺野末梢小型非小細胞肺癌における区域切除 vs. 楔状切除のランダム化比較試験 JCOG2109

1. 研究の対象

- 1) 80歳以上である。
- 2) 臨床病期 IA1-2期で非小細胞肺癌が疑われる。
- 3) 病変全体径が2cm以下であり、腫瘍の中心部が肺野末梢に存在し、充実成分優位の腫瘍である。
- 4) 中葉以外の肺葉に存在する。
- 5) 肺葉切除耐術であると判断される。

2. 研究の目的・概要

高齢者の肺癌患者の割合は年々増加しています。現在、高齢者（80歳以上）における2cm以下の小型で充実成分優位な非小細胞肺癌に対する標準術式は区域切除になります。しかし高齢者では術後合併症も多く、術後に肺癌以外の他病死も生じやすいため、より低侵襲と考えられる楔状切除の方が術後合併症を減らし、他病死を減らすことにより生存を延長する可能性も考えられます。しかし、逆に再発が増える事により生存が短くなる可能性も考えられます。そこで80歳以上の高齢者にとって楔状切除と区域切除のどちらが優れているのかを検証するためにこの比較試験が計画されました。参加していただいた場合、手術中に以下のA群、B群のいずれかの割り当てられた手術が行われ、術後経過、合併症、再発などの情報が集められ、比較することによりどちらがよい手術かを決めます。

A群：区域切除

B群：楔状切除

コメント

小型肺癌で区域切除でも楔状切除でも切除可能な場合に、高齢者にどちらを薦めるべきかに関しては現時点ではわかっていないため、この試験に参加していただき、将来の標準治療が確立されることにご協力していただければと考えています。

当院の連絡先：

施設名 栃木県立がんセンター

研究責任医師名 松隈治久

住所 〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南 4-9-13

TEL：028-658-5151